

## 5. 今回の地震から学んだこと、感じたこと、役立った対策など、ご自由に ご記入下さい(自由記述)

### (1) 活動に関すること

#### (良かった点)

- ・普段からコミュニケーションをとっていたため協力的かつ迅速な対応ができた。
- ・事前に「家族調書」を作成していたので、高齢者の一人暮らし世帯への食事や食料品を届けることができた。
- ・対策本部が設置され、町内会、消防団との毎日の打合せに出席し、避難所の全体の様子が分かり、婦人防火クラブで出来ることなど役割分担が確認できた。
- ・研修会のおかげで、常に心の準備ができていたため、あわてず行動できた。
- ・当町内会は自主防災組織が見直され再活動していましたので、婦防だけではなく町内会役員一同、被災状況、安否確認活動がいち早く出来ました。
- ・いざというときに何でも人のために出来ると、確信出来ました。
- ・消防団からの声かけがあり、炊き出しの準備がスムーズにできた。
- ・町内会、婦人防火クラブ員の声かけで中学校へ避難した方への炊き出しなど多くの人が手伝ってくれた。
- ・住民の団結力、若い世代の積極参加にとっても嬉しく思いました。
- ・地震発生時、火事にならなかったことが本当に良かったと感じています。
- ・町内会と集会所を拠点に役員の一員として、連日定刻に集合、情報を交換し対策を立て行動した。
- ・町内会役員をはじめ多くの方々の援助と協力、そして個人個人の自覚と取り組みで、今回の震災を乗り切ったのではないかと思います。
- ・町内会長が各アパートの世帯状況を把握していたので、安否確認がスムーズにいきました。

#### (問題点や課題)

- ・通信網が機能せず、炊き出しの応援をしてもらいたくても連絡がつかなかった。
- ・町内で約束していた安否確認の方法（玄関に白いタオルをかけておく）が、ほとんどの家庭で出来ていなかった。
- ・自宅が被災したりすると、なかなかお手伝いするのは難しいと感じた。
- ・炊き出しのアルファ米の炊飯方法が仙台と他都市で異なる場合があり、戸惑った。
- ・電話が通じない時の連絡方法が不備であった。

#### (対応策など)

- ・町内会と連携した活動体制の確立。
- ・情報をいかに早く正しく得て、提供することが必要。
- ・震災後、婦人防火クラブ員は、報道等で「震度5強」の地震が発表された場合、自主的に集会所に集まることに決めました。
- ・町内会独自の取り組みとして、防災訓練時には安否確認として、各家庭の郵便受けに白いタオルを掲げるという約束事を決める。
- ・一定規模以上の災害の場合、安否確認の仕方について各地区の状況を参考にしながら対応したい。
- ・町内会で防災チームを結成する予定。
- ・通信網が途絶した場合の連絡方法を決める。
- ・町内の役員が不在でも、活動できる体制が必要。

### (2) 防災訓練に関すること

#### (良かった点)

- ・自助の大切さが家族にも徹底されました。
- ・町内会と連携した訓練を実施していたので、地震後あわてずに活動できました。
- ・訓練で防災意識を高めてきたので自助の意識付けになった。
- ・訓練をしていたので段取り、チームワークがスムーズに進みました。
- ・コミセン資機材を使った訓練が大変役に立ちました。

#### (問題点や課題) 設問4回答再掲

- ・想定以上の災害であった。

- ・避難所運営の訓練をしていなかった。
- ・主に火災を想定した訓練中心だった。
- ・今回の震災は今まで行ってきた消火、救助、通報等の活動を必要としなかった。
- ・今回の震災はけが人や火災が発生せず、今まで行ってきた訓練を必要としなかった。
- ・ほかの地域の避難者を受け入れる想定をした訓練をしていなかった。
- ・長期に及ぶことを想定した、震災時の対応訓練ではなかった。
- ・訓練どおりに町内会と連携できなかった。
- ・電話が使えずクラブ員に情報伝達が出来ず活動が出来なかった。
- ・安否確認の役割担当者が不在のため、確認作業が訓練どおりいかなかった。
- ・訓練は毎年同じことのくり返し、もっと有意義なことを学ばせてほしい。
- ・余震が続くなか、身を守るのに精一杯だった。
- ・家庭のことをするのが精一杯だった。
- ・自宅の被害が大きかったため、自分と家族の安全確保、安否確認に追われた。

#### (対応策など)

- ・「3.11大震災を語り合う会」を開催し今後の対応策を確認した。
- ・防災について基本的なことを徹底して話し合っていく必要がある。
- ・一人でも多くの参加を呼びかけ、より多くの防災意識を持ってもらうことが必要。
- ・自助が大切、子供たちに同じ考えを持たせることが必要。
- ・都市型地震被害に対する防災を考えていましたが、津波、原発などこれからの防災を考えなければならない。
- ・何度も同じ訓練をすることが必要。
- ・判断力を身につけるには、やはり訓練が必要である。

### (3) 避難、避難所に関すること

#### (良かった点)

- ・役員さんをはじめ、民生委員さんなどと協力してがんばりました。
- ・小学校の避難所運営については、地区災害対策実行委員会が昨年設立され、動き始めていたことが大変良かった。
- ・小学校には備蓄もあり、校長・教頭・6町内会長そして婦防にて災害対策本部を設置し、避難者への対応にあたった。
- ・避難所に温かい食事を提供した時、ありがとうございますと喜んでくださいました。私たちも嬉しかったです。
- ・避難所となった学校で、3町内会の婦人防火クラブが炊き出しの担当となったが、普段から訓練をしていたことが大変役に立った。
- ・町内会長の判断により集会場を開放していただき、集まった人たちが食材を持ち寄り、炊き出し、水汲み、掃除と分担して10日間避難の日々を過ごしました。
- ・高齢者の家の片付けをボランティアに依頼できた。
- ・ボランティアの方々に感謝しています。

#### (問題点や課題)

- ・行政からの指示がなかった。
- ・避難所の入り口には役所の方の姿が見えず、中に入っていくのがためらわれた。
- ・学校の先生方ともう少し連携がとれればよかった。
- ・避難所に行けない高齢者に食料を分けていいとかダメとか一貫性がなかった。
- ・避難所によって格差を感じた。
- ・避難所の人数の多さ、期間の長さには防火クラブ員としては手も足もでなかった。
- ・周りの人に気を使ってしまうなどの理由で避難所に行けなかった人がいた。
- ・交通機関がマヒしたため、避難者が集中し、地域住民が学校に避難できなかった。
- ・避難所がいっぱいになり、集会所に行った方に支援物資が提供されなかった。